



李相軒先生が靈界から送ったメッセージ
人類の犯罪者ルーシエル
【厳選抜粋版】

もくじ

第1章 ルーシエルの生涯と彼が引き起こした様々な事件	3
(1) ルーシエルの正体	3
(2) ルーシエルの生存	5
(3) ルーシエルの生涯	7
(4) ルーシエルの行跡	10
第2章 ルーシエルによる疾病	13
(1) ルーシエルによる疾病①	13
(2) ルーシエルによる疾病②	15
(3) 消化器系の疾病	17
(4) 先祖による疾病	18
(5) 前立腺の疾病	19
(6) 循環器系の疾病	21
(7) 呼吸器系の疾病	23
(8) 神経系の疾病	25
(9) 皮膚科系の疾病	29
(10) 婦人科系の疾病	30
(11) 耳鼻咽喉科系の疾病	32
(12) その他すべての疾病	34
第3章 地上の生と疾病の治療	35
(1) 地上の生が地獄に	35
(2) あらゆる疾病の治療	37

第1章 ルーシェルの生涯と彼が引き起こした様々な事件

(1) ルーシェルの正体

ルーシェルは、神様が被造物を創造される時、エデンの園の中で、さまざまなことに対して、隅々まで世話をしなければならない使いの立場として創造されました。神様はルーシェルを愛されました。そして、エデンの園の中にあるすべての被造物の世話をしよく育て、楽しむように彼を導き、教えられました。ルーシェルも、神様の命令に従ってあちこちを歩き回りながら楽しみ、神様に従順でした。

その後、神様はアダムとエバを創造し、彼らを神様の子女の格位に立てられ、「惜しみなく世話をし育て、愛しなさい」とルーシェルに指示されました。初めうちはルーシェルもとても喜びました。神様の子女の世話をしているという自負心を持ち、神様の愛にとっても感動して、神様の子女をよく保護し、とても大切にしながら育てました。ただし、ルーシェルの保護とは関係なく、アダムとエバはすくすくと成長していました。

しかし、歳月が流れるに従って、次第にルーシェルは、神様の愛に反旗を翻し始めました。「いくら考えてみても、私が先に苦労してエデンの園をつくり上げてきたのに、神様はなぜ私よりもアダムとエバをもっと大切にし、愛されるのか」という疑問とともに、ルーシェルには、神様に対する寂しさが芽生え始めました。

そして、ルーシェルは時々、神様の愛に対して抗議することもありました。ルーシェルは神様に、「どうして私には下さらないみ言をアダムとエバにだけ下さり、どうして私よりアダムとエバを格別な立場で愛されるのですか。私は寂しいです。正しい道を追い求めていかれる神様が、そのようにされるのですか」と言いながら、反発し始めたのです。

そのようなことが何度か起こりました。そのたびにルーシェルは、自分が守るべき位置を失っても、アダムとエバと同等な位置で暮らしたいと思うようになったのです。特にルーシェルは、エバと接近するたびに性的な情感を抱くようになりました。そして、神様の目を巧みに避けながら、より一層強くエバに接近し始めました。

この時、天真爛漫なアダムとエバは、ルーシェルのあらゆる行動に対して、まるで父母に対するようによく従いました。ルーシェルは、

李相軒先生が霊界から送ったメッセージ
人類の犯罪者ルーシェル

自分だけが彼らの父母であるかのように行動しながら、神様の目を避けつつ、自分が彼らの主人のごとく振る舞い、アダムとエバを手の内に入れ、次第にアダムとエバと神様の関係を疎遠にさせていきました。

そして、ルーシェルは、神様の目から次第に離れて、主人のように、王のように、父母のように振る舞いながら、エバを誘惑し始めました。アダムはその事実を知らないまま、自分が行きたい所を思いのままに歩き回りながら楽しんでいました。アダムはすくすく成熟していきましたが、ルーシェルとエバの関係を全く悟れませんでした。アダムには、神様が教え導いてくださることもなかったのです。エバはルーシェルの近くで過ごしていたので、アダムは1人で暮らすのが習慣になったまま成長していきました。

一方で、ルーシェルがエバに罪の種を芽生えさせようとする時、神様がルーシェルに「自分の居る所で自分の位置を守らなければならない」と警告されました。それにもかかわらず、ルーシェルは、神様に対してさらに強烈に反抗し始めました。ある時は、自分の位置や身分も意に介さないほど大胆に行動しました。

神様は何度もルーシェルに言い聞かせました。ルーシェルに対して「自己の位置を離れれば、私の前に大きな犯罪者になる」と言われ、様々な角度から諭されましたが、そのたびに彼は神様の位置に立ち、「神様ができることは自分にもできる」と反発して、自分勝手に進んでいったのです。

神様は、ルーシェルが歴史に汚点を残さないようにするため、彼を何度も諭し、警告されました。しかし、ルーシェルは、自分が最高で、神様よりもっと高くなることができるという驕慢な心まで抱くようになったのです。

さらにルーシェルは、エバに接近しながら彼の驕慢性を伝え始めました。罪惡のうねりが波打ち、波濤のように押し寄せる中で、神様はこの上ない悲しみに耐えながらルーシェルをなだめましたが、結局ルーシェルは、人類歴史の前に犯罪者となってしまいました。

言い換えれば、ルーシェルとエバの不倫の関係が始まったのです。その事実を知るようになった神様は、どのような心情だったのでしょうか。それは、涙と悲痛と痛みの入り交じったものでした。神様は、エデンの園で最も悲痛な存在になったのです。そうして神様は、このような心境を万物と共に癒やしながら、過ごしていかざるを得ませんでした。

これが何日になったのでしょうか。これが何年になったのでしょうか。神様がこのような心境であるにもかかわらず、ルーシェルとエバは、神様を避けながら狂ったように享楽にふけていました。しかし、まだ分別のなかったアダムは、神様の悲しい心情を少しも押し量ることができずにいました。そのため神様は、万物を友として、子女として、嘆きの歳月を送るしかなかったのです。

その後、エバは、次第に理性的に成熟し、自分とルーシェルとの関係が不倫なものであることを悟るようになりました。このような関係の中で、エバとルーシエルの不安と恐怖は、より一層増し加わっていきました。そしてエバは、ルーシェルから受け継いだ不安と恐怖をそのままアダムに移し始めたのです。

分別のついていなかったアダムは、エバの姿を見た時、成熟した女性として不安に震えるエバを救済してあげようと、慰めながらエバの言うとおりにしてあげたのです。それがアダムとエバの愛でした。しかしアダムは、自分よりももっとエバを愛するルーシェルがいることを知りました。こうして時が流れていき、アダムとエバの複雑で陰しい愛がつづられていったのです。

これが人類罪惡史の始まりであり、人類の原罪の根となりました。神様は、父母として愛することもできなかった子女を、ルーシェルに先に奪われてしまいました。その時の神様の凄惨な心情は、どれほどのものだったのでしょうか。

神様はそのような悲しみと痛みの立場にあっても、父母の立場で子女たちを迎えたかったのですが、彼らが墮落して神様の前に立つことができないので、神様は父母の立場を去らざるを得ませんでした。神様と人間の父子の関係が、その始まりからこのように難しく、痛ましく、悲痛な歴史へと流れてしまいました。宿命的な愛の父子関係が、恨みと呪いと悪夢の場へと転落したのです。ですから、今こそこの罪惡歴史を正し、ルーシェルが本来の位置で神様の前に両手を挙げて謝罪する時、初めて復帰摂理の痛みと神様の恨の歴史が解かれるのです。(1999年2月10日)

(2) ルーシエルの生存

エバとの不倫の関係が成立したあと、ルーシエルの生活は神様からとても遠くなりました。彼のあらゆる生活環境が、神様に反撃し対抗する非原理的生活に発展していきました。そうしてルーシェルが

李相軒先生が霊界から送ったメッセージ
人類の犯罪者ルーシェル

行く所は、いつも不協和音が起こり始めました。

ルーシェルとエバが罪を犯すことによってできた罪惡世界は、全面的にルーシェルから出発しています。そのような世界のあらゆる人たちは、神様が願うことと反対の方向に心が向かうようになっていました。彼らは、このような姿勢を積極的にとって急変していったのです。

神様が人間に「東に行きなさい」と指示されれば、ルーシェルは反対方向の西へ行くように人間の心を誘導し、神様の摂理を妨害する立場で生活したのです。ルーシェルは、神様の側で働きながら寂しさを感じた人を積極的に誘導し、自分と親友のような関係にしたのちにグループを編成し、組織を拡大させていきました。

神様の側では、善惡を教えてくださいはなく、神様のみ言だけを教えられました。しかし、ルーシェルは、自分（中心）の立場で「神様が人類になさることはすべて間違っている」と説得しながら、神様のみ旨とは反対方向に急速度で組織を拡大したのです。そうすることによって、善側（神側）の組織は次第に弱体化し、その数も減り始めました。

しかし神様は、それに対して少しも弁明されず、教えも下さいませんでした。ここから善惡の闘争というものが生じたのです。ルーシェルの組織と勢力が急速度に大きく強化、拡大されていましたが、神様は、孤独な心情でルーシェルとその一派が過ちを悔い改め、帰ってくることをただひたすら待っていらっしやいました。そのような歳月が今日まで流れてきたのです。それが神様の恨の歳月であり、神様の痛みと悲痛と痛憤の歳月でした。

惡の勢力は強化され、善の組織は踏みにじられていきましたが、長い歳月の間、神様は、真の子女が現れて、間違った罪惡史を明らかにしてくれることを待ち望んでこられたのです。それが神様の恨の歴史です。

しかし、時が流れ、歳月が流れると共に、人間たちの心の中では、ますます二つの心が対立し、互いに弁明し、闘いながら、2人の主人を求め、仕え、生きていくようになりました。そのような姿をご覧になる時、人間を造られた神様の心情は、どれほど痛ましく思われ、嘆かれたのでしょうか！ それでも神様は、創造主である前に、父母として子女に対する慈悲と忍耐と愛をもって待ちながら、人間がその本性を通じて神様を求め、善に生きることを願われました。

人間が良心の声に従い、様々な姿で神様の実存を探し始めていく

と同時に、そこにいろいろな宗派が生まれました。お一人の神様のもとに数多くの宗派が出現し、互いに摩擦し、相反し、闘争するようになりました。神様はそのような姿を見つめられる時、また別の次元の痛みを通過されなければなりません。唯一なる父母のもとで、数多くの兄弟たちが互いに争っているのですから、神様の痛みはいかばかりでしょうか。

歳月が流れていくにつれ、人間生活の変化に伴って様々な宗教が出現し、人類の心を善に導こうとすれば、そのたびにルーシェルとその勢力は、その宗教を妨害し、追い詰め、分裂させてきました。そのような歴史が流れるとともに、数多くの教派分裂が起こったのです。ルーシェルの組織と勢力が大きくなればなるほど、また悪の勢力間でも自爆行為が起こり、そこで新しい善を追求する歴史が胎動し、天道の路程をつづってきたのです。

結論的に言えば、神様を求めていく道は開かれています。ですから、誤った道にいるのなら、再び後戻りしてでも正しい道を求めていかなければなりません。善の道は前進すべき道であり、悪の道は再び帰ってこなければならない道です。ですから、「結局悪は滅びる」という表現は実際的な表現なのです。

長い歳月の間、ルーシェルは神様と反対方向の道を歩いてきたので、今こそ彼は再び帰ってこなければならないはずです。誤った道を行けば行くほど、戻ってくる過程がもっと難しくなるだけです。ルーシェルとその一派は、すべてのことを一日も早く整理し、悔い改めて、神様の前に一時も早く戻り、謝罪しながら、過ちを犯した歴史の犯罪者として、満天下の前に自白して現れなければなりません。(1999年2月11日)

(3) ルーシェルの生涯

ルーシェルは、人間始祖の根本の愛と神様の摂理をすべて知っていました。彼は、神様に対する不安と恐怖、そして自分がいるべき立場をすべて知っていたので、いつも何かに追われるような不安に包まれ、いつかは何か事件が起こるという恐怖感に苦しみながら生きてきたのです。これがルーシェルの生涯でした。

ですから、ルーシェルは不安と恐怖に取り囲まれ、愛と平和の観念を完全に忘れて生きていました。彼は、かつて神様の愛の中で幸福に暮らしていた事実さえ、はるか昔のこととして忘れ、いつも不安と恐

李相軒先生が霊界から送ったメッセージ
人類の犯罪者ルーシェル

怖の囲いの中で生活していたのです。そのような環境の中で、彼は自分の満足を得るために闘争し、自分の思いが実現することを願いました。彼の生活は、このようなパラダイム（枠組み）がずっと繰り返されていたのです。

ルーシェルは、不安と恐怖と一つになって生きていました。神様のことを思えば、愛と喜びと希望と平和と温かい聖霊が連想されますが、ルーシェルのことを考えると、即座に不安と恐怖が連想されるのです。自分のものではない、人のものを盗み、奪い取って自分の思いを実現しようとするので、ルーシェルにこのような不安と恐怖が起こるのは必然的なことです。

このように、ルーシェルの本質的要素は不安と恐怖になりました。それでルーシェルは、いつでもどこでもそれが発露するのです。いくら心を欺こうとしても欺くことができないように創造されているのが、神様の被造物だからです。

それでは、どうすれば不安と恐怖の枠の中から抜け出して、慈愛なる神様の心情と同じようになれるのでしょうか。それは、自分の位置と自分の身の程をわきまえる道しかないのです。自分の位置ではない他人の位置に居座り、有頂天になって主人の振る舞いをしていれば、いつか真の主人が現れるのではないかと怖くなり、いつも不安になるようになっていきます。

ですから、ルーシェルは、すべての人に「私は主人ではありません。ちょっと待てば主人が来るでしょう」と言いながら、自分の正体を隠さずに明かせば、彼の心は平穏になるはずです。彼は、謙遜な姿勢を持ち、利己的な要素を捨てなければなりません。他人の位置を欲しがり、主人でない者が主人の振る舞いをするなら、彼の正体は、いつかは明るみに出るのです。

ルーシェルは明らかに自分の位置と自分の身の程を越えて、主人の地位を奪った形になりました。不安と恐怖は過大な欲望のために生じたものです。自分を捨てて本来の自己の位置で誠実に生きてこそ、平安と愛と幸福の土台を備えるようになるのです。

今までルーシェルが人類に犯した最も大きな犯罪は、人類に原罪を伝えると同時に、不安と恐怖まで伝えたことです。ですから、人間の心の中に不安と恐怖が残っているということは、墮落の要素が残っていることを意味します。これを清算するのは、人間の努力やただ祈るだけでは不可能です。人間がどんなに努力して祈っても、人類の罪悪史を解決することも清算することもできません。

李相軒先生が霊界から送ったメッセージ
人類の犯罪者ルーシェル

私たち人類は、この貴い人間の「生」の中で、ルーシェルから受けてきた凶悪な要素を、私たちの体と心の中から追放しなければなりません。そのためには、ルーシェルの正体をくまなく暴き、彼の根源的な要素を根絶しなければなりません。それは静かな沈黙や瞑想の中で、自然に解決されるものでは決してありません。

知らないということでは、神様の前で善にはなれません。知るよう努力しなければならず、知ったことで終わってもいけません。皆さんは、学校で知識を蓄えるようになりますが、その知識が知識として終わるのなら、何の意味もないでしょう。学んだことを理解し、実践してこそ、ルーシェルから受けてきた凶悪な要素を追放することができるのです。

長い歳月の間、私たちは、ルーシェルという存在を人類の犯罪者としてのみ理解していたのであって、それを追放する方法論は、誰も教えてくれませんでした。しかし今、私たちはみな、その追放する方法を学び、ルーシェルの要素を根絶しなければなりません。

紛れもない事実、人類の父母は神様であるという事実です。人類は、神様に侍って生きる永遠不変の父子の関係で結ばれているという事実です。それが事実ならば、人類歴史の前で犯罪者は誰なのか、なぜ私たち人間に2人の主人ができたのかを考えなければならないはずです。おそれ多くも、「2人の主人」という言葉を神様の前で、どうして使うことができるでしょうか。私たち人類の父母は、ただ唯一なるお方だけです。その方が、まさしく創造主である神様です。

それでは、今まで神様は、どれほど心を痛められたのでしょうか、どれほど気をもまれたのでしょうか、どれほどお待ちになったのでしょうか、どれほどむなしかったのでしょうか。私たち子女は、神様がどれほど凄惨で孤独な日々を過ごされたかを、繰り返し推し量り、今こそ神様の恩恵に報いて、報恩の人生を歩まなければなりません。

そして、ルーシェルは、自分の本来の位置に帰らなければなりません。満天下の前に贖罪の心情を持って自己の位置に戻り、そこで静かに神様の命令を待ち、その命令に従う姿勢を持たなければなりません。そうして満天下の前で、犯罪者として神様の前に贖罪の心情を持たなければなりません。

彼は、黒い仮面をかぶって大勢の人たちを欺きながら生きてきた長い歳月を、どのようにして回復するかを考え、自分の位置に帰らなければなりません。長い歳月の中に人類にできたあざや傷あとが残っている限り、ルーシェルは頭を上げることができない自分である

ことを肝に銘じ、神様の下さる命令を待たなければならないのです。

ルーシェルは、真の父母様のサタン根絶の年を迎えて、終結させなければならない歴史的曲折を一つ一つ解き放ちながら、真の父母様の生存時に、それらを締めくくらなければなりません。そして、神様の摂理の前に人類のあらゆる罪惡史を收拾して、自己の位置に戻りなさい。神様のもとでの貴い苦難の歴史は、満天下の前に貴い歴史として残りますが、ルーシェル自身のための暗闇の苦難の歴史は、行けば行くほど神様の前に犯罪者の名として大きな汚点を残すだけです。

どこの誰が分かるでしょうか。私たちの父母に染み付いた傷と痛みと苦難のその場所を。私は、子女として孝行の立場というのは、父母と共に同じ道を歩み、父母の傷をさすり、いやすことだと思います。恨の立場で生きてこられた神様の歴史を、私は子女として満天下の前に告げようと思います。

人類の犯罪者は、今こそ両手を挙げて歴史の前に謝罪しなさい。私たち人類の主人は、ひとえに神様だけであり、私たちの父母だけが永遠に共にいらっしゃるのです。神様の恨の歲月、嘆息の歲月が続いてきましたが、今こそ私は、子女として先駆者となり、ルーシェルを罪に定め、その罪状を満天下に暴露しようと思います。(1999年2月13日) ここから本文になります。

(4) ルーシェルの行跡

ルーシェルは、エデンの園で神様のもとを離れ、天道から離脱したがゆえに、神様の属性ではない罪惡から生じた不安、恐怖、憎しみ、ねたみ、嫉妬、欲心といったものにとらわれて生きてきました。神様の本性は、愛、平和、幸福、善といったものです。神様は、このような属性を人間に授けようとされました。

しかし、人間の本性の中には、神様の属性よりも悪の要素が受け継がれ、長い歲月が流れてきたのです。それでも、父母は子女を待ち、子女は父母を探し求めるのが天理原則ゆえに、歴史の前にルーシェルを証人として立て、誤った歴史の出発をきちんと正さなければなりません。

ルーシェルは本来、自分の位置から離脱して偽ってきたので、仮面がはがされることを常に恐れて生きてきました。ですから、ルーシェルの生活は、愛ではなく憎しみに満ちていました。ルーシェルは、い

つ自分の位置が奪われるかと不安と焦りの中で生きてきたので、周囲の人をみな競争の対象とみなしてきました。そのためルーシェルは、常に愛よりも憎しみが先立つようになっているのです。そのため、ルーシェルの心は、常にねたみ、嫉妬、欲心などが占領せざるを得ませんでした。

そして、このようなルーシェルの属性、またその行跡と結果が人間に受け継がれ、人間のあらゆる生活の領域に致命的な打撃を与え、それが人間の疾病となったのです。人間の心に平和と幸福と愛が満ちれば、心が安らかになり、病気が生じることはありません。今日、現代人が患う大部分の病は、ルーシェルから受け継いだ罪に起因するものです。そうして時がたつにつれて、その病魔の位置が少しずつ大きくなり、その様態も深刻なものになってきたのです。

現代医学は、病気の根本原因を全く治療することができず、その病気の結果だけを見て治療することに渾身の力を尽くしています。これが現代医学の実情です。

それでは、ルーシェルが引き起こした病気を、どのようにして治療すればよいのでしょうか。今日の病気の大部分は、罪を中心としてできたものです。したがって、病気を治療するときは、その病気とかかわった罪の根をまず抜いてしまわなければなりません。『原理講論』の墮落論で明らかにされているように、罪の根は人間の不倫の愛です。これが人間個々人にその様相を異にして現れるのです。

例えば、「肝臓がん」と言う病名は現代医学がつけたものです。人それぞれ肝臓がんになった原因は違うこともあるでしょう。たばこやお酒で肝臓を酷使しすぎた場合や、相手を憎むあまり憎悪心が肝臓に支障をきたした場合などです。同じ肝臓がんであっても、前者は物理的な要因によって生じた病気であり、後者は精神的要因によって生じた病気と言えます。前者はお酒とたばこをやめて休息をとることによって治療でき、後者は相手を憎んだ心を悔い改めることによって治療できるでしょう。このように、その病気の治療方法は様々に分類することができます。

しかし、前者にしても後者にしても、根本要因は一つです。それはルーシェルの属性からきたものです。ですから、私たちが病気を治療するときには、目に見える病気の結果に先に依存するのではなく、その病気の根本要因を取り除くことに重点を置かなければなりません。言い換えれば、神様が下さった属性にまず依存しなければならないのです。

李相軒先生が霊界から送ったメッセージ
人類の犯罪者ルーシェル

現代人が最も恐れるがんという病気も、その根本要因は人間始祖の過ちから始まったものです。したがって、愛、平和、幸福といった神様の属性を中心として、私たちが心からよく与え合うことができれば、ルーシェルの属性は追放されるでしょう。ルーシェルの属性が何千年もの間に渡って受け継がれ、今日に至っているとしても、私たちが神様の属性を中心として生活すれば、ルーシェルは必ず両手を挙げて出ていくようになっているのです。

一つの根本から2人の主人が生じました。主人ではないよそ者が主人に成りすましたという行跡は、今や歴史の前に審判を受け、すべての病魔は、ルーシェルの滅亡とともにこの地球上から永遠に追放されるべきです。

今や私たちは、ルーシェルのあらゆる行跡をあからさまにし、個々人から墮落の根を根絶することに邁進しなければなりません。神様の愛と平和と幸福の花が咲き乱れるその日のために、私たちはみな自分自身を一生懸命に磨き、育てていかなければなりません。(1999年2月25日)

第2章 ルーシェルによる疾病

(1) ルーシェルによる疾病①

地上には数えきれないほどたくさん病気があります。そして、その病名もまた多いのです。それでは、ルーシェルは、どのようにして人間を病気にし、どのようにして死の境地にまで追いやるのでしょうか。

一つの例を挙げてみましょう。がんは地上で最も恐ろしい病気であり、その種類も様々ですが、胃がんという病気はなぜ生じるのでしょうか。

人間にとってとても重要な器官が胃腸です。人体構造の中で何一つ重要でない器官はありませんが、特に胃腸は、口から入った食べ物を消化し、保管するところです。この多くの栄養を保管して人体に供給しなければならない胃腸が故障すると、人体構造には深刻な問題が生じるだけでなく、生命の維持にも甚大な支障をきたします。そうなれば、人体構造への栄養供給が不均等になり、人体が衰弱して病原菌に対する抵抗力がなくなります。

胃がんという病気は、概して飲食物の過食によって胃腸を酷使することから生じる病気です。それ以外にも、人体のあらゆるところで共通することですが、神経を多く使ったり、細かい小さなストレスがたまったりすると、胃の収縮運動がうまく機能しなくなるので消化ができず、飲食物がたまってそのかすが残るのです。

このように、いろいろと酷使される胃腸ですが、胃の中の食物は、授受作用によって均衡を保つようになっています。そのおかげで人体の健康が維持され、人間は生きていけるのです。

例えば、飲食物をととても塩辛くして食べると、身体器官が渴きを覚え、水を飲むことによって塩辛い成分を蒸発させます。また、辛い物を多く食べた場合は、胃が痛くなり、「これ以上辛い物を入れるな」という信号を送って辛い物を食べないようにするのです。このように人体構造の相互作用は絶妙です。

ここで私たちは、神様の人間創造の神秘を発見するのです。目に見えるものを陣頭指揮するのも大変なのに、見えない人体構造は、誰の指示を受けるわけでもないのに、神秘的なほどうまく作用しています。人間を愛する神様のその愛に対して、私たちは重ねて感謝しなければなりません。

ところが、このような人体構造の機能を妨害し、人間の肉体を壊す

歴史的な犯罪者がいます。それがまさしくルーシェルです。ルーシェルは、よく機能する胃だとしても、機能することができないようにつかんだり、切り刻んだり、ねじったり、つねったりします。こうなると、胃がちくちく痛んだり、潰瘍ができたり、穴が開いたりして様々な症状を誘発します。

このような人は、飲食物を食べることができず、食べたとしてもうまく消化できないのです。それであちこちの病院に行ってみるのですが、このようにして生じた病気はなかなか治りません。それで人は、「これは神経性のものだ」といって慢性病だと思い、常に苦しい思いをしながら生きることになるのです。

人間の肉体が故障するとき、「痛い」と感じるのは本当に不思議なことです。痛いと感じなければ治療しませんが、痛いと感じるので治療に神経を使うようになるのです。

それでは、この病気をどのように治療すべきでしょうか。この病気が発病するきっかけについては、様々な側面から挙げることができます。しかし、重要なことは、病気の根本要因を自ら探しださなければならないということです。発病の根本原因が分かれば、50パーセントは治療したのと同じになります。

だからといって、ルーシェルがもたらした病気を、物理的な治療をせずに祈ることだけに依存しなければならないのでしょうか。そのようにすれば、愚かで道理の分からない愚鈍な信仰となるでしょう。それは神様の胸により一層の痛みをもたらすことです。

現代医学は神様が祝福されたものです。ですから、病気を治療するには、当然のこととして医学に頼らなければなりません。しかし、ここで最も重要なことは、ルーシェルによる根本要因を処理しなければならないということです。「なぜこのような病気になったのか」という根本要因を探し出し、悔い改めるべきことがあれば悔い改め、正すべきところがあれば正さなければなりません。このようにしてこそ、ルーシェルがその病気から離れるのです。

ところが、このような事実を全く考慮しないまま、病院に長期間通いつめたり、祈ったりばかりしていたのでは、その病気の治療は難しいのです。もちろん祈るだけで治る場合も少なくありません。病気の症状によっては、絶対的な信仰だけで治る場合がないわけではありません。

それでは、現代人の最も賢明な判断とは何でしょうか。それは正しい考えと深い信仰を持ち、成約時代のみ言を自ら実践し、神様に侍っ

て生きていくことです。私たちは、神様の子女として成熟した信仰者の姿勢を持たなければなりません。今まで霊界に通じる多くの人たちが、その誤った考え方や判断のゆえに、周りの多くの人たちを暗闇の淵へと導いた例が少なくありません。

神様は、人間に「天地のあらゆるものの中でおまえが最高だ」と言って育ててくれました。しかし、中には、霊界に通じる人たちの「甘言異説（かんげんいせつ：口車）」にまどわされ、誤った所に流されていった事例が多くあります。これは本当に心が痛むことです。ですから、病気になったとき、あわてることなく祈る姿勢が必要です。私たちは、信仰の年輪を重ねるほど、自らの問題を自ら解決していく成熟した信仰の姿勢を持たなければなりません。

私たちはみな、地上で真の父母様の教えに従って精誠を尽くして実践しなければなりません。そのようにしながら、混沌と空虚の中にいる自分自身をしっかりとつかんで、ルーシェルの血統を永遠に根絶させることに全力投球しなければなりません。(1999年2月27日)

(2) ルーシェルによる疾病②

人間が肉体を持って地上で約 100 年生きるその間、肉体は一つの有機体として存在します。そして、これは本来、神様が下さったものです。その肉体は、幼い時は成長しますが、20 代を過ぎると、そのすべての機能が次第に衰退していきます。それは公式です。ところが、肉体が老衰して古くなり、衰えて死に至る場合よりも、病気になって壊れる場合のほうがはるかに多いのです。これはあまりにも悔しいことです。

神様から愛の生素（生霊要素）を受けながら、喜んで生きるべき人間の姿が、生まれる時から不完全な個体として不安と疾病を抱えて生まれました。言い換えれば、人間は生まれながらにして罪惡から出発したのです。人間は誰もが罪惡の血縁と関係しているので、常にルーシェルから侵犯され得る要因が形成されていたのです。ですから人間は、全く予想もしていなかった病にかかった姿になるのですが、まず霊的に病にかかり、次にルーシェルから侵犯されて肉体が病にかかった姿になったのです。

あらゆる病気の 70%から 80%は、霊的要因によって生じたものです。そして、20%から 30%は肉体の過労や環境の要因によって生じるのですが、このような病気が人間を悲惨な状態に追い込むことは

ありません。では 70%から 80%の病気とは何でしょうか。それは、ルーシェルと彼にそそのかされた手下たちが苦しめる病気です。

ここにはそうなる何かの条件があります。よく信じる人に対しては、教会でその人の群集心理（ぐんしゅうしんり：集団の中で個人の判断や行動が周囲に流されやすくなる心理）を誘発させ、あらゆる人たちの前でサタンの振る舞いをさせるようにしたり、信仰生活における不足なところについて信仰の道を妨害したりします。そのようなときは、祈りと謙遜と愛で目覚めれば、それに打ち勝つことができます。

しかし、ルーシェルとその一派に侵犯され続けると、その要素が肉体のある部分に密着します。この時、その部分の機能が麻痺して肉体が壊れるのです。そうすると、信仰は遠のき、肉体は病気になります。ルーシェルはそのような人を闇に追い込み、自分の味方にしてしまいます。

このような人が霊界に行けば、当然のことながら、ルーシェルを主人として仕える所に行くしかないので。ここから宗教の教派分裂が起こるのですが、この問題についてはここでは論議しません。

霊界はとても広いのですが、神様が共にいらっしゃることのできる所はほとんどありません。ですから、神様はどれほど孤独でしょうか。その心情を皆さんは理解しなければなりません。

今までルーシェルが人間にしてきた残虐な行為は、とても言葉で表現することができません。神様の子女が霊界に来て悲惨な姿でいるとすれば、神様の悲しみはいかばかりでしょうか。地上で天国が成されない限り、霊界の天国はあり得ないので。真の父母様が地上にいらっしゃる間に、地上のあらゆることを整理しなければならないのですから、どれほど大変でしょうか。

ルーシェルの手下たちは、広範囲にわたって包囲、包摂するのに余念がないのですが、神様は、長い歳月の間、ひたすら彼らが帰ってくるのを待ち続けてこられました。しかし今、真の父母様がすべての条件を備えられました。私たちは、ルーシェルの要素（不安と恐怖）を最終的に整理することに集中しなければなりません。そうしてこそ、私たちは、子女の名によって人類の犯罪者を悔い改めさせることができるのです。

これまで神様は、ルーシェルの要素によって病気になっていく大勢の人類の惨状をご覧になりながらも、ルーシェルがその惨状について心から悔い改める時を待ってこられました。ですから私たちは、

ルーシェルが悔い改めるように、真の愛で一つにならなければなりません。これが私の懇切な願いです。(1999年3月7日)

(3) 消化器系の疾病

消化器系の疾病に関して、一般の医師は、過食や塩辛い物、辛い物の取りすぎで胃が酷使されることで発病すると考えています。そして、この疾病がなかなか治らなければ、医師は「神経性」のものだと考えます。これが現代医学の共通の所見です。

しかし、前者は明らかな原因があるので発病するのは当然です。ところが、これとは異なり、発病の原因が全く分からないまま、苦痛にあえぐ人たちが大勢いることを知らなければなりません。前者の場合は、用心して注意しながら薬を服用すれば治りやすいものです。しかし、後者の場合は、ルーシェルがもたらした病気なので、治療するのが困難です。

したがって、この疾病においては、薬を服用したり、この病院あの病院と移りながら治療したりしてもあまり良くなりません。患者は毎日苦しみます。胃が痛くて食べられない場合もあれば、のどが詰まって食べ物が通らない場合もあります。食べても、胃もたれを起こして死ぬ場合もあります。そのため、このような人は、おかゆやもち米のご飯を食べながら、数年間も苦しむのです。

それでは、このような疾病の発病原因を説明しようと思います。

人間は、個人の使命や先祖の実績と功績、生活の様式によって、疾病の様相がそれぞれ違って現れます。しかし、胃腸に関する限り、ルーシェルやその手下が直接胃腸をぎゅっとつかんでいるので、胃腸に痛みが生じるのです。彼らが胃腸をつかんでいると胃が働かないので、消化器系に疾病が生じ、場合によっては、心臓にもその影響が及ぶのです。

この時、このような苦痛を受ける人が大きな使命を持った人物であれば、ルーシェルは、その人物の使命成就を妨害するために、食物を食べることができないようにする場合もあり、信仰の篤い人であれば、信仰の道を行くことができないように試練に遭わせる場合もあります。

ルーシェルは、いろいろな様相でこのような人たちを何とかして苦しめようとするのです。そうして、場合によっては胃がんにしたり、胃炎にしたり、胃けいれんを起こさせたりします。そうして、その疾

病は慢性病になるのです。

この時、ルーシェルは、肉体の病気だけではなく精神的な葛藤も一緒にもたらしめます。人間は、この事実を知らないまま、あちこちの病院に多額のお金を払っては無駄にするのです。ここで私たちが知らなければならない明らかな事実は、この発病の原因を私たち各自が分別できなければならないということです。前者の場合なのか、後者の場合なのかを分別しなければなりません。

前者であれ後者であれ、私たち人間は、健康でなければならない義務があります。ゆえに私たちは、まず医学的に確実に発病原因を究明し、次にその病気をどう治療するかを考えなければなりません。

医学的に異常がなければ、それは間違いなく霊的な病気なので、祈らなければなりません。祈れば神様が手を打つことができます。私たちが神様に祈って願ったことに対しては、神様は必ず答えてくださいます。その理由は、私たちは神様の子女だからです。祈らなければ、神様は手の施しようがありません。なぜかという、ルーシェルが私たちの主人として居座っているからです。しかし、私たちが「神様」と呼ぶと、ルーシェルは引き下がるのです。

今まで私たちは、病気の根源的な解決方法を考えずに、外的な治療にばかり力を注いできました。これから私たちは、ルーシェルの要因（不安と恐怖）を退け、父なる神様に治癒の手を求めなければなりません。神様は愛の本体であられるので、必ずや答えてくださいます。私たちは神様に自ら進んで祈り、その方を私たちの真の父母として侍らなければなりません。（1999年3月8日）

（４）先祖による疾病

現代医学が治療できない病気にかかって、一生の間苦しむ人たちが大勢います。その疾病は先祖による疾病です。ところが、この疾病に対しては神様も関与されません。ルーシェルと同じ血統同士では思い通りに行き来できますが、神様は干渉できないのです。それは、第一に、血統的な因縁のゆえであり、第二に、私たちの先祖が神様ではなくルーシェルの系列だからです。

地上で生涯を終えて霊界に行った先祖たちは、そのままの姿で子孫の所に訪ねてきます。そのため、人間はその先祖のゆえに病気になることもあります。この場合、その先祖が霊界で留まっている位置が安らかではないので、その人の体の具合が悪くなるのです。これは、

その人の先祖に何かの事情や頼みがあるという信号です。

この問題でも祈らなければなりません。慢性的な病気を治療するには、成熟した信仰者としての姿勢が必要ですが、現代医学の助けも同時に受けるべきです。これはどういう意味かということ、先祖のせいばかりしてはいけないということです。地上人は肉体を持っているので、自らの責任が必要だという意味です。

先祖のゆえに身体のある部分が故障したとすれば、その子孫は、毎日先祖の解怨を行うことで治るというだけではなく、解怨すると同時に自分の責任も完遂してこそ、故障した部分が早く治るのです。その病気が先祖の恨みに由来したものならば、その子孫が誠実な信仰姿勢で生きていくとき、初めてその先祖も霊界の良い位置で安らかに留まることができるのです。

ですから、私たち人間に訪れる大部分の病魔は、ルーシェルの系列の先祖によって受け継がれたものです。彼らが私たちに多くの苦痛をもたらしているのです、私たちはその原因を自ら悟り、祈りながら身の振り方を正していかなければなりません。(1999年3月9日)

(5) 前立腺の疾病

前立腺の疾病は、男性に関連した特異な疾病です。これは、男性の睪丸に炎症が起き、前立腺が肥大する疾病です。ですから、この疾病は早く手術しなければなりません。そうしなければ、前立腺が肥大して大変困難なことになります。医学界では、この疾病にかかると睪丸に異常が起こるので、すぐに手術しなければならない疾病だと言われています。

ところで、この疾病を霊的に見ると、人間は原罪を持っているがゆえに、生まれながらにして生じる疾病です。罪の根本の根が何かは、すでに「原理」で明らかにされています。人間の罪の根であり、罪の種の本拠地が、まさに男性の精子にあったのです。この疾病は100%、サタンによってもたらされたと言っても過言ではありません。これは深刻な問題です。

ところで、この病気を霊的に見ると、人間は原罪を持っているがゆえに、生まれながらにして生じる病気です。罪の根本の根が何かは、すでに「原理」で明らかにされています。人間の罪の根であり、罪の種の本拠地が、まさに男性の精子にあったのです。この疾病は100%、サタンによってもたらされたと言っても過言ではありません。これ

は深刻な問題です。

そうだとすると、すべての男性の前立腺が肥大し、睾丸に炎症が起こって手術しなければならないはずですが、なぜ一部の人たちだけがこの疾病にかかるのでしょうか。本当に驚くべき事実なのですが、これは、先祖の蕩滅や本人の過ち、夫婦の過ちによって、その血統が様々な次元で複合的に異なって現れるからなのです。医学界では、とんでもないばかげた話だと一蹴するでしょう。しかし、これは事実です。どうしても事実は明らかにせざるを得ません。

この疾病に関する霊界での一つの実相を例として挙げてみましょう。地獄の現場では、地上で多くの病魔に苦しんで霊界に来た人たちの悲惨な姿があちこちに見られます。その中で、ある一つの場面についてお話します。

地上の生活で、ある男性とある女性が姦通していました。自分の妻と自分の夫を欺いていたのですが、そのような生活を数年続けているうちに、その男性の睾丸に病気が生じて夫婦生活ができなくなっていました。その女性は病気にかかった男性から遠ざかるようになり、その男性は2人の女性から捨てられ、様々な葛藤が生じました。そして男性は、このような葛藤の末に、姦通した女性を殺害したのです。

そして、この地獄の現場で、この男性と女性は、怨讐のようににらみ合いながら座っているのです。ところが、その男性の下半身は、ちょうど赤ん坊の頭ほどの肉の塊のようになって腫れあがっていました。それにもかかわらず、その女性は男性の下半身を触って戯れているのです。そのため、その男性は死ぬほどの苦痛を味わっていました。

それだけではありません。男性が苦痛でうめいているのに、その後ろでは、その男性の父親が遊女たちと戯れているのです。父親は息子に見られるのではないかと、びくびくしながらも戯れているのですが、それはとても目を開けて見ていられるものではなく、文章で表現できないほどひどいものです。これは、まるでルーシェルが神様の目を避けて不倫を犯し、血統的な罪の根を相続させた現場と同じです。このような事実を地上人がどうして知ることができるのでしょうか。

しかし私は、凄惨でありにもひどいルーシェルの血統をくまなく明らかにしようと思います。そして、ルーシェルによって捕らわれている多くの病魔の系列を解放しようと思います。(1999年3月10日)

(6) 循環器系の疾病

循環器系にも様々な病気がありますが、ここでは心臓病について話そうと思います。心臓は人間にとって大切な肉体の一部分です。この心臓は、人間が呼吸するたびに、休むことなくポンプの働きをして人間の生命を維持してくれる重要な部分です。そして、心臓は頭脳のように、人間の本当の心が作用するところなので、様々な思いによって酷使されやすい部分です。

人体構造はすべて互いに連結されていて、一つの部分が故障すると、他の部分も連鎖的に故障することになります。しかし、心臓は人間の悲しみや喜びに影響されて病気になりやすい部分なのです。また、肉を食べ過ぎたり、アルコール濃度の高いお酒を飲んだりすることによって心臓の血管が詰まり、病気が生じることもあります。

医学界の視点は前にお話したとおりですが、霊的に見るとき、一人の人間にどのようにして心臓病が生じるのか、その過程を見てみましょう。

ルーシェルやその系列の者たちは、人間を放っておくはずがなく、私たちが少しでも楽をしようとする、むやみやたらに苦しめるのです。彼らは、常に人間の頭の中に心配や不安や恐怖を入れようとします。また、根拠のない様々な雑念をつのらせたり、飲んではくたを巻く酒飲みにしたりと、あらゆる手段と方法を講じて心臓に苦痛を与え、心臓を不安で窮屈な状態にするのです。

このように何日間も酷使された心臓に、突然何かのアクシデントが起こると、心臓はショックを受けてその人は死ぬのです。これが心臓まひです。このように何日間も心臓が酷使された人は、心臓の薬を服用しながら、心臓を休ませて安静にしなければなりません。しかし、そうすると、その一方で人間は太って心臓の動きがなおさら困難になるのです。ですから、心臓病を治せない人は、一生の間、恐ろしい死刑宣告を受けた人のように、用心して暮らさなければなりません。

私たちがこのような病気から自由になるためには、現代医学の助けを受けながら、信仰の姿勢を保ち、健康回復に対する自信と勇気を失わないようにしなければなりません。

神様が人間に下さった最も貴い贈り物は愛です。私たちはこれを悟り、愛し合い、尊敬し合い、喜び和合して、すべての領域で分かち合い、信仰と愛であらゆる問題を解決していかなければなりません。そして、ルーシェルに引きずられる姿から解放されて神様をお迎え

し、希望と喜びに満ちた姿であらゆる病気を治していくことを願います。

ここで、地獄の現場の話をもう一つしようと思います。山のように太った体を持つ一人の女性についての話です。

その女性の唯一の願いは、はれ上がった肉がとれて身軽に歩き回ることであり、悩みと心配から解放されることです。その女性は、あまりにも重くて歩くこともできず、いつも誰かに助けてもらわなければ起き上がることができません。地上で生きている時、その女性は多くの財産を持つお金持ちでしたが、財産管理の問題で心の休まる日がありませんでした。そして、財産をもっと増やすために大勢の人たちを傷つけ、時には周囲の人や兄弟とも怨讐関係になりました。結局その女性は、財産問題のゆえに心臓まひで死んだのです。

しかし、この霊界では、その女性が起き上がろうとして、そばにいる人に「手を貸してほしい」と頼むと、「あなたは金持ちなのだから、召使を雇って召使にさせればいいのに、どうして私たちに頼むのか」と反発して、ひどい言葉をむやみやたらに浴びせるのです。その女性を助けようとする人は1人もいません。この女性の刑罰はいつまで続くのでしょうか。なんとも哀れな光景です。神様は長い歳月の間、このような数多くの惨状をご覧になっていらっしやったのです。

人間が神様の子女の立場にあることを考えると、心臓病よりももっと深刻な問題があります。それは人間の誤った生き方から生じた地獄という大きな罠です。私たちは、このような罠が神様と真の父母様にどれほど大きな傷を抱かせているかを思いながら、地上生活において、ルーシェルの誘惑から解放される成熟した信仰者として目覚めなければなりません。私たちは、すべての欲心と富貴栄華がどこに由来しているのかを発見し、それを自ら処理していかなければならないのです。

※奥様、このようにすべての病気はルーシェルがもたらしたものです。その原因をお知らせしましたので、理解しやすいと思います。しかし、ルーシェルとその配下の者たちは、人間から簡単には離れず、人間が深い淵に落ちるまでしつこく攻撃してきます。これは、ルーシェルの属性がとてもひどい悪だからです。(1999年3月11日)

(7) 呼吸器系の疾病

人間の人体構造の中で、どれ一つとして大切なものはありません。神様は、人間を創造される時、彫刻をするように、人体構造の一つ一つを精密かつ綿密に設計され、考えて創造されました。ゆえに、人間の内部を開いてみると、あたかもコンピューターや電気製品の付属品のようにすべてが連結しているのです。

神様は、私たち人間をこのように細部まで精密に設計してから、人体構造の各部分を研究、分析し、有機的かつ神秘的に創造されました。ところが、ルーシェルは、自分が先頭に立って神様の創造物を破壊しておきながら、神様を宇宙万物創造の失敗者と見せかけるために、無分別な行為を反復してきたのです。

きょうは、人体構造の呼吸器の中でも、最も中心的な「肺」の部分について話そうと思います。一日、いや一時でさえ呼吸しなければ人間の生存は不可能です。この呼吸器系の故障は、周囲の環境汚染、つまり細菌や各種のウイルス、公害、工場の粉塵、教室のチョークの粉、そして過労によって生じます。人間の肉体は、無理に扱おうと壊れてしまうものです。これが医学界で言う呼吸器系の疾病です。

ここで、人間の肉眼では見えない靈的な細菌による発病、すなわち呼吸器系の器官に対するルーシェルの残酷な行為について話そうと思います。

上記のような物理的要因によって人間の呼吸器系の器官が悪くなることもあります。ルーシェルの要素（不安と恐怖）が前後左右からこの呼吸器系の器官に張りつき、苦痛を与えるとときに発病する事例も多いのです。そういう場合は、ルーシェルの要素があちこちに長く居座る前に、ルーシェル一派の行為とその攻撃をあらかじめ知って対処すれば、その病気を簡単に治療することができます。

呼吸器系の器官に病気が生じると、多くの場合、高熱や長期間の微熱を発症します。この時に私たちは、まず薬局や病院に行って熱を下げます。ところが、薬を飲んでも、注射を打っても、全く効かない場合が問題なのです。

最初のうちはしばらく熱が下がっても、また上がります。そのような状態が何度か続くと、結局、呼吸器系のどこかが悪くなるのです。ルーシェルとその一派は、どこかに入り込む余地はないかと、あちらこちらをくまなく探しまわり、心を悩ませ、体を苦しませ、経済的な損失を与えるなどして、人間に苦痛をもたらすのです。

そして、この病気は、不思議なことに、ある部分からさっと他の所に移りながら、せきをさせたり、熱を出させたりするのです。このようになると、人は風に当たるのが嫌になって外出しなくなり、体を安定させるために横になって過ごすようになります。そうして腸チフスの症状が現れることもあるのです。この病気は、ありとあらゆる方法で人の魂を引き抜き、気力を落とさせ、病気に対する恐怖に震えさせ、精神を虚弱にして意欲を失わせ、自信をなくさせながら、人間に様々な苦痛をもたらします。

また、呼吸器系の疾病は、話をする時に近くにいると、ウイルスによって伝染する可能性も高いので、肺結核にかかると、夫婦でも親子でも隔離しなければなりません。するとルーシェルとその配下の者たちは、より一層勢いを増して活動するのです。人間を孤立させて自分たちが思うように攻撃できるので、ルーシェルたちが大変好む疾病です。

この疾病は人間が生まれる時から血統を通して遺伝するので、手の施しようがありません。ルーシェルが影のようにつきまとい生えてきた人間との血縁関係があるからです。それが怨讐です。

ここで、この疾病に関する地獄の現場での例を挙げてみましょう。

地上で相当に裕福な家門で暮らしていた1人の女性がいました。その女性は、ある男性から捨てられ、悩んだ末に肺結核になりました。その悩みと心配が彼女の肺を悪くしたのです。悩みと心配はルーシェルの最も根本的な属性なので、ルーシェルがその女性の所に行き、悪魔の業（わざ）をしては、悩みと心配をあおりたてて病気を悪化させたのです。

現代医学は、肺結核を軽んじ、がんを最悪の病気と考えますが、肺結核はとても恐ろしい病気です。それは、ルーシェルとその配下の者たちの攻撃による病気だからです。

以前は、肺結核にかかった人を無条件に隔離しました。この病気にかかると精神的に弱くなって死に至るので、大変恐れられたのです。実際、医学を研究、分析した私自身も、地上でこの病気に感染した経験がありますが、その原因を知ろうとはしませんでした。

しかし、地獄の現場で私は、このような問題を解決するために、何度も考えて処理しようとしてみました。しかし、地獄の行列は日々増すばかりです。地上にいる人たちが地上でこれを処理しなければならないのです。

結局、この女性は、肺結核に悩まされて自殺し、地獄行きになった

のですが、周囲にいる霊人から「肺病患者だ」と言われてさげすまれています。その女性がせきをしようものなら、「あっちへ行け」、顔を上げて「あっちへ行け」、息をしても「口を閉じて息をしろ、口をふさげ」と言い、あちこちで「隔離収容所に移せ」と叫んで大騒ぎしているのです。

人体構造の一つ一つを神秘的に創造された神様が、人間の父母であられることを思うと、子女の体がむしばまれるの見て、どれほど心を痛めていらっしゃるのでしょうか。地上で子どもを育てる親でも、子どもが風邪をひいて熱が少し出ただけでも大騒ぎするのに、このように悲惨な姿、理由も分からず病気にかかって死んでいく姿を、毎日贈り物でも受け取るかのように、黙ったまま座って見ているしかないのですから、神様の心情はいかばかりでしょうか。

あらゆる病気の要因はルーシェルに起因します。ルーシェルが地球上で悔い改めない限り、病魔は尽きることがないでしょう。私たちはこぶしを握り締めて、この病魔を追放しなければなりません。真の父母様が処理してくださるのを待つのではなく、私たちが神様と真の父母様の力になりましょう。(1999年3月12日)

(8) 神経系の疾病

現代人は、過度な競争時代に生きているので、多くの悩みを抱えるようになり、神経を酷使させています。ところで、この神経系の疾病は、肉体の疾病とは少し違います。これといった理由もないのに、どこかに痛みが出たり、熱が出たりするときがあります。その原因を見つけ出すには多少の時間がかかるのです。

この神経系の疾病は、一度かかると容易には治らないのが特徴です。その代表的なものが、うつ病、精神錯乱症、対人恐怖症などで、その病名も様々です。

うつ病はなぜ生じるのでしょうか。人はすごく悩んだり、生活が楽しくなかったり、つらい生活が続き、その生活から抜け出せないとうつ病になります。

また、同じ神経系の疾病である精神錯乱症は、うつ病とは全く違います。人と会うことを嫌い、1人で孤立することを願うのは、神経系の患者の共通する特性ですが、精神錯乱症の患者は、自分が思うことを思うように表現することができません。このような患者は、物事を見る視点も一般の人とは違います。うつ病患者は物事を見る視点が

一般人と同じで、自分の考えを正しく表現することができます。しかし、精神錯乱症患者は事情が全く違うのです。それでは、なぜ精神錯乱症になるのでしょうか。人は一つの考えに執着したり、自分でも知らないうちにショックを受けたりした時に疾病が生じるのです。

これ以外にもその要因はいろいろありますが、いずれにしても、うつ病や精神錯乱症などの神経系の疾病は、不治の病というのが現代医学の一般的な見方です。

ここで、霊的な側面から見た神経系の疾病について話そうと思います。

うつ病や精神錯乱症は、霊的に見た場合、同じ病気と言うことができます。ルーシェルー派の共通する習性は、常に人間の肉体と精神を酷使させて病へと導き、死の道へと追い込むことです。それが彼らに共通する特徴です。

彼らは人間にしつこくつきまとい、心配させ、悩ませ、孤立させ、精神的に追い詰めて弱点を突いてきます。「おまえは容姿が良くない、おまえは頭が悪い、おまえは女性らしくない、おまえは男らしくない」などと言っては意気消沈させるのです。そして、ルーシェルは、このような症状を抱えた人を大衆の前に立たせたり、時には出られないようにしたりしながら、あらゆることに対して自信をなくさせ、劣等感に苦しんで深刻な挫折を感じるようにさせるのです。こうして彼らは、人間を苦しめて悲惨な状態にさせ、結局自殺へと誘導します。

そして、神経系の疾病には対人恐怖症がありますが、これは100%彼らがもたらす悪の行為です。ルーシェルたちは、人間を過度な競争意識にとらわれるようにして、すべてにおいて一番になることを求めるように誘導します。そこから落伍すれば敗者となり、まるで人生の最終列車に乗ったかのような絶望感に陥らせ、二度と再起できなくさせるのです。そして、どこからともなくわいてくる深刻な孤独感、疎外感、悲哀感、屈辱感、絶望感などは、すべてルーシェルとその一派が引き起こす症状と言うことができます。

このようになると、その人は精神的な健康に自信を失い、自分のあらゆる生活を放棄するようになり、人生の目標も目的も設定することができなくなるので、結局は自殺の道を行くしかなくなるのです。それだけではありません。訳もなく他人に反抗したり、八つ当たりしたりするのも同じ系統の症状です。

ルーシェルたちは、人間を不安と恐怖におびえさせ、常に家庭全体を恐怖と闇に追い立てることで、その家には平和のない不安と恐怖

の雰囲気がつくられ、葛藤と摩擦を継続して起こさせて不幸にするのです。このような結果は、すべてルーシェルとその一派の仕業です。

このような神経系の様々な症状を言葉や文章でどれだけ表現できるでしょうか。甚だしくは、脳をぐるぐる巻きにして機能をまひさせたり、精神的機能が正しく発揮されないように脳をぼんやりさせたり、一つの考えに陥らせ、次から次へと起こる雑念で眠れないようにするのです。精神的機能をぎゅうぎゅうに縛り付けているので、眠気が吹き飛んで眠ることができず、不安におびえ続けるしかないのです。

このような不安は、ルーシェルの根本属性であり、神様の目を避けてエバと墮落した時のルーシェルの属性が、人間に受け継がれたものです。精神的に困難を経験する人たちの多くは、不安と恐怖と恐れ of 捕虜となってしまうのです。それは共通する事実です。

私たちの周りで、不安と恐怖に悩まされている人々を大勢見ることができるでしょう。そのような人は、精神科に行き、安定剤を飲んで不眠症を抑えながら、何とか生活していくのです。ここにその姿を一つ一つ列挙することは難しいので、地獄の一場面を例に挙げてみようと思います。

人間にとって最も恐ろしい病気はがんだと思いますが、それより恐ろしいものが精神病であると私は言いたいのです。がんは肉体的な病気なので、地上で治癒すれば霊界には残りません。しかし、ルーシェルに攻撃された病気は、その行為自体が深刻です。

ここに地獄で苦しむある女性がいます。その女性は、自分の肉体を誇って、いつも下着もつけずに真っ裸で歩いています。彼女はただ歩き回るのではなく、自分の性器を出したり、胸や体を誇示したりしながら歩き回るのが、それはまるで道化役者そのものです。なぜなら、その女性は本当に器量が悪く、体つきも味噌麴（みそこうじ）の塊のようにひどいからです。

周りにいる人たちは、それを見せ物のようにおもしろがり、その女性のあちこちを触ってもてあそんでいます。これよりもっとひどい姿もあります。自分の全身を人前にさらけ出しながら、相手のものを自分のものであるかのように、「私は男だ。私はかっこいい、たくましい男だ」と言いながら、堂々と歩いている女性もいます。彼女は自分が何をしているのか、どのように生きているのか、全く分別できずにいるのです。このような人が1人や2人でしょうか。その姿をどうして言葉で表すことができるでしょうか。

李相軒先生が霊界から送ったメッセージ
人類の犯罪者ルーシェル

このような姿が混ざり合い、絡み合って、あたかも糸を巻いてひとまとめにしたかのようです。その糸をほどくための糸口を見つけることは、とても困難です。

このような人たちは、地上でルーシェルの餌食となってめちゃくちゃな暮らしをしてきた人たちです。ですから、神経系の症状が出始めたときは、絶対にルーシェルが侵犯する機会を与えてはいけません。神経系の疾病は神様の能力で簡単に治すことができます。彼らは神様の聖霊を最も恐れるからです。このような疾病は、薬で多少安定はしますが、その病気の根を抜くことは困難です。

それでは、このような病気を治す方法は何でしょうか。このような患者は、自分の精神自体を見定めることが難しいので、どうして自ら祈って治療できるのでしょうか。ですから、周りの人やその家族の祈りによって解決することが可能です。

しかし、ここでとても困難なことがあります。それは、ルーシェルがうそをつきながら、そこから一時も離れずにずっと居座っていることです。ですから、その家族も大変ですし、本人も大変です。だからといって、患者をそのまま放置することはできないので、入院させるのです。これがこれまでの精神病治療の方法でした。

私たちは、もうここで新しくならなければなりません。今や人類の犯罪者がルーシェルであることが 満天下に明らかにされたのですから、ルーシェルのあらゆる系列のアジトまでも、すべて燃やし尽くしてしまわなければなりません。いつまでそこにいさせるのですか。そこを燃やし尽くす方法は、徹底的な信仰とこの上ない精誠で忍耐強く祈る作戦しかありません。

ルーシェルが一人一人の人間を病気にするために、どれほど執拗に苦しませてきたか、皆さんは分かりますか。私たちは、あまりにもたやすく自分たちの体をルーシェルに明け渡し、精神的基盤まで崩れる傾向がありました。私たちは、過去とは変わらなければなりません。

ルーシェルの根源的な根は抜き去られたので、私たちがいる所から、ルーシェルのアジトだと思われる所は無慈悲に燃やしてしまわなければなりません。私たちはいつまで彼の手に乗せられているのですか。各自で自ら解決方法を研究してみてください。これは神様が私たちに下さった特権です。

神様は私たちの真の父母であり、私たちはその子女なので、私たちが祈り、精誠を尽くせば、必ず病気は治るという信念を持たなければ

なりません。精神の健康で苦しんでいる人たち！ 今解放の日が私たちの前に到来したので、私たちは感謝と喜びをもってそれを受け入れ、真なる神様の子女として、そして洗練された成約時代の子女としての道を歩んでいきましょう。(1999年3月12日)

(9) 皮膚科系の疾病

すべての人体構造は、かかわり合い、結び合って、精密に組み立てられた上で、皮膚という膜でうまく覆われています。そして、神様はそこに生理的な流れを創造されました。神様はそのような人間をご覧になって、とても喜ばれました。

そして、人間にはいろいろな皮膚の色があります。大きくは、黄色人種、白色人種、黒色人種に分けられます。ところで、この皮膚の色とは別に、皮膚の変化によっていろいろな疾患が現れます。やけどや打撲傷のような皮膚の外傷とは関係なく、内的現象によって様々な皮膚病が生じることがあるのです。いずれにせよ、医学界で言われているあらゆる皮膚の炎症が起こり得るということです。

それで、驚くべきことは、皮膚の疾患においても、ルーシェルの悪性が作用しているということです。皮膚の疾患が生じて病院に行くと、医師はすぐに炎症が起こらないように注射を打ち、薬の服用を勧めます。すると効果があることも、効果がないこともあります。

ここで皮膚の疾患における、私たちの肉眼では見えない霊的世界の一場面の話をしようと思います。

なぜか皮膚に炎症が起こって赤く腫れあがり、体は寒気がするという経験を皆さんはしたことがあるでしょう。その時にルーシェルとその一派は、赤く腫れた部分や炎症の起こったところをいろいろな方法で攻撃し、襲撃します。場合によって、かゆかったり、痛かったり、腫れたりもします。このような現象は、病院に行って何度か薬を飲み、注射を打てば治る場合もありますが、治らない場合もあります。

ここで必ず知っておかなければならないことがあります。ルーシェルの一派は、人間が常に苦痛の中で生きることを願い、その方向に引っ張っていきます。皆さんは、皮膚病の炎症は彼らとは関係のない病気だと思いやすいのです。しかし、決してそうではありません。何のこともない炎症、大したことのない小さなできものを通してでも、人間を苦痛へと引っ張っていかうとするので、ルーシェルはここに

は関与しないという考えは禁物です。どんな方法を通してでも、苦難に引っ張っていかうとするのがルーシェルの習性です。ですから、私たちはこのことも覚えておかなければなりません。

霊界で見たことを地獄編としてフィルムに収めて、皆さん全員に一度見せてあげたいと思います。ここ霊界では、皮膚から各種の汚物がだらだらと流れ、そばに行くと悪臭が漂い、魚市場の魚が腐った臭いよりももっとひどい臭いがすることも多いのです。

こういった人たちは、地上の生涯で整理できなかった様々な事情があったのでしょう。行商をしていてお金を奪われ、刃物を振りかざしてけがをしたり、財産問題で争ってけがをしたりなど、様々な事情があるのでしょう。そのような場合、その困難と苦痛の傷が、地獄では様々な様相の皮膚の疾患として現れるのです。ですから、人間に苦難を与えるために、どの片隅であっても、ルーシェルが攻撃しないところがないのです。

嫌悪感を与えるような皮膚にして苦痛と苦悩をもたらし、悲惨な姿にしようとするのが、ルーシェルの人間に対する攻撃です。私たちは、もうこれ以上、負けてはいけません。私たち全員が同じ憤りを感じながら心を合わせ、人類の犯罪者を永遠に追放することに参加しなければなりません。これが私の切なる心です。(1999 年 3 月 13 日)

(10) 婦人科系の疾病

婦人科系の疾病は、女性にだけ生じる疾病です。子宮がん、女性の生理痛、乳がんなどがこの系統に属します。日常的に産婦人科でよく扱う各種の病名を一つ一つここで列挙しなくても、皆さんは理解できると思いますので、本論に入ろうと思います。

サタンは、女性の子宮の内外、乳房などにも、数限りなく攻撃して苦痛を与えます。例えば、一般的に、女性が結婚して一番待ち遠しいのが赤ん坊です。ところが、ルーシェルとその一派が人間の繁殖を妨害するのです。それで何度も流産して、やっと子どもを生む女性もいます。そして、妊娠したとしても、サタンは様々な苦痛を与え、妊娠を放棄させたり、環境的、肉体的な苦痛を与えたりして、結局、流産させるのです。ここで一つの事例を挙げてみましょう。

1 人の女性が妊娠しました。ところが、ルーシェルの一派とその女性の先祖たちが寄ってたかって妊婦の体を打ち、苦しめながら子宮

壁を崩し、苦痛を与えて下血させました。それでは、なぜ霊界の先祖がその妊婦に協助せずに苦しめるのでしょうか。それは、その先祖が地上生活で犯した罪を蕩滅するためであり、その先祖の霊界での位置と居場所がとても不安でつらいからです。このような先祖が妊婦のところに来れば、妊婦の肉体は崩れ、子孫の繁殖が途絶えるのです。

ではなぜ、その先祖はルーシェルの系列に加勢するのでしょうか。それは同じ系列だからです。そのように、復帰されていない先祖が妊婦を助けようとしてやって来ると、むしろ妊婦に苦痛を与えることになり、妊婦にとっていいことはないのです。

ここで私たちが注目すべきことがあります。氏族的メシヤは、このような先祖たちをみな救わなければならないということです。地上ではもちろんのこと、天上の先祖まで、氏族的メシヤの名で祈って解放しなければなりません。

先祖の居場所が安定していないために、彼らは救いの手を求めるのです。ある特定の人物を通じて救いと解放を受けてもよいのです。私たちの先祖は、数えきれないくらい大勢いるでしょう。真の父母様が私たちに氏族的メシヤの特権を下さったので、私たちには自分の先祖を救う使命があるのです。ですから、私たちは直接、氏族的メシヤの名で祈り、私たちの先祖を救うことができるのです。ところが、私たちには、そのための信仰が足りません。ですから私たちは、真の父母様のみ言を絶対的に信じ、先祖のために祈り、彼らを救ってあげなければなりません。

婦人科系だけではなく、あらゆる病気の根源はルーシェルが動機になっているものが大部分なので、その原因を私たちが先に知って治さなければなりません。ここで婦人科に関連する地獄の現場の一場面を紹介します。

地上で子どもを生んで死亡した若い女性がいました。ところが、彼女は、ここでは赤ん坊を抱いたまま、いつも赤ん坊と一緒に泣いていました。それで私は、その女性にその訳を聞いてみました。女性は、「この子の父親は、未婚ではなく妻のある男性です」と言いました。女性は子どもを生みたくなかったのですが、時既に遅く、生むしかなかったということでした。

しかし、その男性の本妻が女性のところにやって来て、何度も非難を浴びせ、「遠くに行ってくれ」と繰り返し言ったのですが、その若い女性は最後まで居座りました。その後、この女性は出産して死んだとのことでした。

ここで私たちが肝に銘じなければならないことは、正しい道でなければ、決して行ってはならないということです。この女性は、他人の夫を迎えることができない自分であることを悟り、そのような道を行ってはならなかったのです。この時、誰が霊的に困難を受けると考えるでしょうか。真理でないことは、いつかは崩れるようになり、道でないものは、ふさがれるようになっています。それが神様のつくられた「天道」です。

罪を犯せば罰を受けるといいますが、この罰は誰かが与えるものではありません。自分自ら受けて自滅するのです。それが天法なのです。神様が創造されたのは、悪ではなく善です。神様の全能性とは、善を主管する能力です。したがって、神様は悪には干渉されません。神様が干渉しない悪が栄え続けるのでしょうか。悪はいつか必ず自滅するようになっています。「天道」があるからです。今、悪が自滅する時が来ました。神様の真の子女が出現したのですから、神様は決してこれ以上待たれません。

誤った人生の道に入ったとすれば、早く方向転換しなければなりません。帰ってくる道が遠くなれば、それだけ子孫の道が困難なものになります。

あらゆる病気の発病原因は罪惡に起因します。度を過ぎた欲心、ねたみ、嫉妬なども、やはり病気の根源になります。皆さんは、愛と美、心情の主体であられる神様の前に本然の姿で帰ることを、両手を合わせて祈らなければなりません。(1999年3月14日)

(11) 耳鼻咽喉科系の疾病

人体構造のどれ一つとして大切にないものはありません。しかし、不幸なことに、耳鼻咽喉科系にも様々な疾病があります。その病名を一つ一つ列挙しなくても、皆さんはそれをよく知っているでしょう。ここで言わんとすることは、肉眼で見ることのできる物理的な疾病ではなく霊的な疾病です。

物理的な疾病は簡単に治療できます。しかし、サタンの霊的な攻撃を受ける疾病を治療するのは、本当に難しいのです。例えば、首にサタンの攻撃を受ければ、首が締められたり、声がしゃがれたりします。サタンは耳に雑音が聞こえるようにし、精神を錯乱させたり、鼻をふさいで呼吸困難を起こしたりもします。このように、サタンは耳鼻咽喉科系の器官にも、少なくない苦痛を与えるのです。

ところで、不思議なことに、病院に行くと身体の部位ごとに病名がつけられていることが分かります。神様は、知情意の主体であると同時に、すべての宇宙の主体であられるので、人間の知的機能を通じて医学を発達させました。地上の様々な次元の医学は、神様が祝福されたものです。そのため、人間が罪の仮面をかぶり、霊的にも肉的にも激しい苦痛を受けたとしても、すぐには死にません。人間が地上で罪を清算し、霊的な疾病を完全に治療して整理してから天上に来られるように、神様が現代医学を発展させたのです。

それで今日、大部分の人たちは、病気になって痛みや苦痛を受けると、病院に行くことを考えます。これが現代人の一般的な考え方です。サタンが苦痛を与えると考える人は、ごく少数にすぎません。その点が神様の心を痛めています。ルーシェルは、人間に苦痛を与えることを自分の使命のように思って行動しています。どんな病気であっても、ルーシェルが攻撃するから人間に病気が生じるのです。

ルーシェルは、何かの理由や条件があるから人間の身体器官を攻撃するのではなく、ただもてあそんでいるのです。したがって、私たちは、私たちの信仰と精誠が解決策であることを知らなければなりません。

神様は、人間にすべての能力と特権を下さいましたが、人間は墮落によって愛と調和の回路が断絶してしまいました。この断絶の期間が長くなり、私たちのあらゆる五官の機能は、あたかも機械にさびがついたようになり、その機能はまともに発揮されずにいるのです。

地獄には、このような現象を現す様々な場面があります。口を持っても話ができない言葉の不自由な人たち、耳があっても聞こえない耳の不自由な人たち、聴覚も嗅覚も本来の機能を失って生きている霊人たちが大勢います。本当にめっちゃくちゃです。なぜこのようになったのでしょうか。いつこれが終わるのでしょうか。この凄惨な現場を火で焼いてしまい、新たな花が咲く園にしたいのです。しかし、私たちには、そのようにする何の能力も資格もありません。

このことをなされる方は、天上には神様、地上には真の父母様しかいらっしゃらないのです。皆さんは、地上で間違った人生を送れば、霊界で永遠の刑罰を受けることを肝に銘じてください。そして、神様が下さったすべての人体器官をサタンに奪われないように、よく保管し使用するよう努力してください。あらゆる人体器官を本然の姿のまま、神様にお返ししなければならない責任が私たちにあるのです。私たちは、サタンの行為をよく区別して、正しい信仰者の道を

行かなければなりません。私たちはみな、憤怒の心情を持って、ルーシェルー派を追放する運動に積極的に同参しなければなりません。
(1999年3月14日)

(12) その他すべての疾病

既に列挙した様々な疾病以外にも、人間には名前も聞いたことのない病気が無数にあります。これらの病気がどこからどのように生じたのかを私たちは、新しい観点で徹底的に調査し、分析できなければなりません。人間は、神様の心を痛めながら病魔に苦しみ、病魔と闘いながら地獄の列車に乗っていくように創造されたものではありません。

歴史の出発が間違っって悪の血統を引き継ぐことにより、様々な疾病が私たちの体を襲撃できる要因を生じさせました。見える病気や見えない病気、言い換えれば、肉的な病気も霊的な病気も、人間の苦しみは神様の前に親不孝の姿です。

これから私たちは、ルーシェルに私たちの肉体を差し出してはいけません。ルーシェルとその一派は、長い歳月の間、私たちを攻撃し、苦しめるために執拗な追撃の生活をしてきましたが、私たちはみ旨を知ったのちにも、いとも簡単に私たちの体をサタンに差し出し、またいとも簡単に倒されました。これは本当に残念なことです。

私たちは、サタン完全根絶の年を迎え、各自の心からサタンを完全に根絶させなければなりません。サタンの要因と要素まで根絶させるように努力しなければならないのです。今までサタンにやられてきた数多くの苦痛を総整理して、完全に根絶させなければなりません。私たちが神様の前に、真の父母様の前に孝行する道は、私たちの思考の中から、サタンが訪ねてくることのできる要素と要因を追放する運動に総進撃することです。(1999年3月14日)

第3章 地上の生と疾病の治療

(1) 地上の生が地獄に

私たちの目には見えなくても、一日一日が過ぎるたびに、大勢の人たちがむごたらしく死んでいきます。この姿を父母の立場でご覧になる神様は、悲痛な気持ちを抑えられないまま、長い嘆息の歳月を送ってこられました。

誰が何の罪を犯したのか、どのように生きてきたのか、全く見分けのつき難い大勢の人たちが並んで散在しています。目が取れた人、足を切られた人、口がゆがんだ人、五臓の病んでいない所が一つもなく、はらわたが裂けて流れ落ちた人、手の節々がすべて曲がったりゆがんだりしている人、目の玉が飛び出した人、腕がついていても、それが腕ではなく棒のような人、髪の毛がすべて抜け、頭が裂けた人、足がくっついて歩けない人、足があっても曲がって足の役割を果たせない人などなど、どうして言葉や文章で表現できるのでしょうか！

このように残忍でむごたらしい姿は、ほかでもない、神様の子女たちの姿です。彼らは、サタンに蹂躪されて病気になり、その靈魂が壊れたまま、この国に来てとどまるようになったのです。その子女たちをただ見つめなければならない神様の心情は、いかなるものでしょうか。

神様のこのような心境は、どのようなものでも慰めることはできず、表現することもできません。もし皆さんの子女がこのような姿で現れたと仮定するとき、皆さんの心情はどうだろうかということを考えてみなければなりません。これが今までサタンであるルーシェルが引き起こした結果です。

なぜこのようになるまで、神様は耐え、待つだけだったのかを考えてみなければなりません。なぜこのようにされたのでしょうか。なぜご覧になるだけだったのでしょうか。神様は、なぜこんなに残忍で無情であられたのでしょうか。子女の悲惨な現場を見せ物として、展示場のように放置なさったのでしょうか。私たちは、このような悲運の歴史の痛みを感じて、何をどのようにすべきかを決断しなければなりません。

数千年のこの上なく長い歴史の中で、天のお父様の名と共にある子女らしい子女が現れることを待ち望んできた歴史が復帰摂理歴史です。誰がこの歴史を復帰するのでしょうか。誰がこの人類を救済するのでしょうか。誰がこのむごたらしい現状を処理するのでしょう

か。皆さんは、神様と真の父母がこの惨事をもう一度整理なさらないければならないことを、肝に銘じなければなりません。この点を深く考えなければなりませんのです。皆さんの実の子がこのような姿で皆さんの懷に帰ってきたとき、どのような心情で治療するのでしょうか。その心情の前に、神様の前に、真の父母の前に、贖罪の祭事を捧げなければなりません。

きょうの題目は、「地上の生が地獄に」と決めました。今からは、本当に地上から地獄に行く生活を断絶しなければなりません。地上において、誤った生活は残らず整理して霊界に来なければなりません。ここに来れば、治療薬もなく、治療してくれる人もいません。地上には医者もいて、病院もあり薬もあるのは、地上ですべてのものを治療して来なさいという意味です。ここ霊界に、神様と真の父母様に治療薬があると思ってはいけません。

ここは値引きがありません。自分の妻も、自分の夫も、自分の父母も、自分の子どもも、天法に引っ掛かれば、互いに見逃すことができる所ではないのです。天道はどうすることもできません。「ああ、私は冬が嫌いだ、早く春よ来い」と皆さんが叫んだからといって、春が来るのでしょうか。これが神様の創造の法則です。生の方は私たちが自ら定めるのです。自分が定めた道は、自ら責任を負い、自ら解決しなければなりません。それ以外にはどんな方法も薬もありません。

結論的に言えば、人間は、地上で生きていた生活そのままの姿で、霊界に行って永遠に暮らすようになっていきます。地上で誤って生きていた姿で、そのまま急に霊界に行く場合もあるでしょう。ですから、皆さんは、地上で様々な次元で平素の生活をいつも整理し、また反省しながら暮らさなければなりません。

どこの誰が、地上から天の国に行く日を知って生きていたのでしょうか！ ですから、皆さんは、あした天の国に行くとしても、恥じることなく行くという確固たる姿勢を持ち、すべてのことを、その日その日にきれいに整理しながら暮らさなければなりません。

その整理と生活の基準は「原理」のみ言です。そして、霊界は間違いなく存在するという事実、罪を犯せば、皆さんの子孫が罰を受けるという事実を肝に銘じ、神様は生きていらっしゃるので、神様の前にどのように、何を持っていくかを肝に銘じながら生きなければなりません。(1999年3月17日)

(2) あらゆる疾病の治療

人間が病気になれば、霊的にも肉的にもつらく、苦しく、困難になります。ですから、そのような病気は、霊的にも肉的にも治療しなければなりません。それが神様の望みです。私たち人間の幸福のためにも、その病気は当然治療しなければなりません。

それでは、どのように治療すべきでしょうか。すべての疾病の根源はただ一つです。それは罪です。ですから、罪をまず清算しなければなりません。先祖の罪を蕩滅するにおいて、欲心とねたみと嫉妬など、罪の種が何なのかを分析しながら治療しなければなりません。

罪の根源や罪の芽を育て続ければ、そこに病気が生じるようになります、さらには、その病気を治療するために財産を使い果たして、困難を経験するようになります。病気の根源は、自分が先に分かるはずで

す。それでは、なぜそれが生じたのでしょうか。そこには先祖の蕩滅も避けていくことができないのです。それは血統とかかわっているために、当然、対処しなければなりません。先祖の罪だといって、じっと座っている愚かな信仰者はいないでしょう。先祖のために祈ってあげながら、私たち自身が正しい生を営み、先祖の前にメシヤにならなければなりません。

現代医学は神様が祝福されたものです。ですから、知恵深く霊的治疗と現代医学の折り合いをつけながら、病気を治療しなければなりません。皆さんは、成熟した信仰者として賢明な生、幸福な生を営みながら、病苦に悩まされることなく、地上生活を過ごしてから、神様の前に直接来ることを切にお願いします。(1999年3月17日)

李相軒先生の略歴

1914年9月5日（陽）、咸鏡南道定平郡新上面で生まれ、1940年に「セブランス医科大学」を卒業後、元山救世病院、釜山大韓基督病院などで内科課長を経て、大田に内科病院を開業。

1956年5月21日（陽）、「統一教会」に入教し、1970年代以降、「国際勝共連合」の第2代、第4代、第6代の理事長を歴任し、1972年3月、「統一思想研究院」の院長に就任してからは、「統一原理」を思想的に整理、体系化することに尽力し、多くの後学を育成、1997年3月22日（陽）に聖和される。

生涯に渡り「統一思想」の研究と普及に尽力した宗教家であり思想家であり医師である。主な著作には、『共産主義の終焉』、『統一思想要綱』、『頭翼思想時代の到来』などがある。